

「リスナー（ラジオ聴取者）の声が聞きたくて、五十一一年間も日本を離れて来ました。」一九六四年からエクアドルのキトで日本語の短波ラジオ放送「アンデスの声」を放送する尾崎一夫さん一家がブラジルを訪れている。尾崎さんはキリスト教伝道師で、六四年一月に

世界に届けと31年 短波放送「アンデスの声」 日本にも多くのファン

パウリスタ新聞

エクアドルへ移住。同年五月一日から同国の短波放送局（HCB）で日本語の放送を始めた。本語の放送を始めた。当時、南米で日本語放送が少なく、日本を出る時にはラジオ放送をすることが放送局との間で決まっていた。短波ラジオを聴く人の有無や電波

「故郷の香りを大切にリスナーからの要望に応じて番組の内容も変えてきた。三十一年間、聴き続けている人も多く、親戚付き合いのようないくつかが生まれてきている。」海抜三千以上のキト市からの短波放送は全世界を駆け巡る。日本での聴取

者も増え、受信した事を証明する「ベリカード」を求める手紙が毎月二百通余り届く。移住者対象の放送から海外での日本語放送へと活動が徐々に変化してきたという。

「青年海外協力隊で南米へ来た人や旅行者などが日本へ帰りがけに寄って来ます。日本での受信者からは、日本のマスコミであまり取り上げられない南米の情報が聴けるので聴けて欲しいとの要望が届いています。」

Reunidas
viaje de Leito

ブラジル国内の各都市を結んで走る高速バス。寝台椅子は豪華



尾崎さんのファミリアと佐藤牧師（左端）

三十一一年間も日本を離れて「アンデスの声」を送り続けている尾崎一夫さんのファミリアが米伯、滞在中、尾崎さんは牧師である。今回の訪伯は日頃「アンデスの声」を聴いているリスナー（聴取者）と直接顔を合わせ取材をかねて、意見を交換するが、尾崎さんは「聴取者の声に直接反応を返している。聴取者の反応に敏感である。日本で発行されているガイドブック「南米編」にも「アンデスの声」がとりあげられている。三十一一年間も放送していると、知名度も高く、日本にも相当数のファンがいる。そうしたファンがキトを訪ねて来る。尾崎さんのファミリアにとって、最も嬉しい時だ。そのお客さんからも取材し、放送

アンデスの声の尾崎さん 聴取者と意見交換

サンパウロ新聞

三十一一年間もエクアドルの首都キト市から四十四カ国に向けて日本語ラジオ放送を続けている「アンデスの声」の尾崎一夫さん一家が、リスナー（聴取者）の声を直接聞き、意見交換するため尾崎さんは牧師で、心

「アンデスの声」は、現在、南米向け毎日一時間、北米と日本向け三十分ずつ、合計二時間。非常に多忙である。今回は無理をして時間を割いて米伯したという。



の糧となる励ましの言葉など、布教もかねて放送を開始した。「六四年にブラジルの日本語放送が禁止されてから、ブラジルから聴取者の手紙が届くようになった。今回は途中でボリビアにも寄ってきたが、原始林を開拓する何もないところで放送した。」と来社して語

1995年の「南米ふれあいの旅」の途中、ブラジルの日系新聞社から取材を受けた時の記事を転載させていただきました。

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
5月06日	アメリカ新発見（ミシガン州）	5月07日	聖書遊覧バス 旧約聖書 ヨシュア記
5月13日	南米ふれあいの旅（アマゾン）中田智之宣教師	5月14日	リスナーからの『お便り交換の時間』
5月20日	女ばかり南米大陸をゆく（ボリビア）	5月21日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇 イントロ
5月27日	マリンバの調べ（ハンガリアン・ラブソディ他）	5月28日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇 第一編

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 15.400kHz （再放送） 午後8時～8時半 15.460kHz
（米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信）

